

令和4年度 学校（幼稚園）自己評価結果

関西女子短期大学附属幼稚園
園長 中村 斉子

1 本園の教育目標

- 建学の精神「感恩」
人は さまざまな恩恵のもとで 生かされている
この真理に目覚め 感動と感謝から生まれる 豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い 行動するとき 私たちは成長し 社会に貢献できる
～「ありがとう」に出会い 気づき 感動 感謝の行動から 新しい「ありがとう」が生まれる～
この建学の精神を体し、具現化する。
- 教育目標「ひろい心 すこやかな身体 豊かな創造性」
- ①「ありがとう」の感謝の心、「いいよ」と言える寛大な心、「ごめんなさい」と言える素直な心を育成する。
 - ②「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など、挨拶の大切さを指導していく。
 - ③絵画製作や音楽リズムを通して、豊かな感性と創造性を育成する。
 - ④恵まれた自然の中で身体を使い、五感をつかって遊ぶ活動を展開する。

2 本年度、重点的に取り組む目標、計画

学園の教育理念と経営方針、本園の教育目標に基づいて、教職員間の共通理解を図る。自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努める。教育内容の改善に主体的に取り組み、保育時間は違うが、本園が担う幼児教育の役割について考えることを重点目標とする。

3 評価項目(事業計画)の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
(1) 本園の保育目標に従い、園児の実態をもとに、教育課程を作成・実践する。	○運動会、作品展、生活発表会などの各行事は独立してあるのではなく、1学期からの子どもたちの様子や発達段階をしっかりと把握し、それに応じた個々の園児への対応、それぞれのクラスや学年の持ち味や特徴をとらえた行事の展開を目指し、計画を立てていくことに取り組んだ。 ○毎週学年会を実施して、具体的な活動方法について話し合い、学年ごとに特色のある教育活動に取り組んだ。
(2) 幼稚園の状況をふまえて、中・長期的な計画を策定する。	○子どもたちの育ちの変化や社会の変化に対応し、発達や学びの連続性を確保し、計画的に環境を構成することを心がけた。 ○コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校との交流が制限された。
(3) 1号認定児 2号認定児を受け入れて、教育力の向上のため、研修の充実を図る。	○教員が学び続けるモチベーションを維持するため、教員の主体的な学びが適正に評価され、学びによって得られた能力や専門性の成果が見える形で実感できるように配慮した。
(4) 園内の施設・設備、安全管理の充実を図る。	○園内の環境及び安全面について、毎週1回の全体点検などを行い、危険防止、環境改善に努めた。 ○子どもたちは成長するにつれて、大胆な行動や、慣れによる不注意な行動が見られるため、教職員が相互に注意し合うように心がけた。 ○B棟1階通路雨除け対策、保育室空調器の老朽化に伴う取替、工事廊下の張替えを行い、施設の充実を図る。

(5) 保護者の要望や意見に適切に対応して、満足度のさらなる向上に努める。	<p>○園内の様子や取り組み内容を「学年だより」やHPで子どもの姿を掲載して、少しでもその内容が分かるような工夫した。</p> <p>○園運営や行事などについて、保護者対象のアンケート調査を実施し、意見や要望に対して積極的に対応して、改善できるよう努力した。</p>
---------------------------------------	---

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員全員が学校評価（自己評価）の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も、客観的な目で自らの教育を振り返り、さらに充実した教育実践ができるように努力を積み重ねていきたい。また、教職員間でのコミュニケーション能力が向上し、意思伝達がスムーズにできるようになってきている。

施設・設備面では環境整備に力を入れており、教育サービスにおいても安心、安全に教育を展開できる環境になるよう努力している。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
(1) 保育と環境、施設・設備の見直しと改善	○今ある自然環境の良さや施設設備を活かして、乳児・幼児がより一層学びを深めていけるような、環境の見直しを図っていく。従来の点検、整備を充実できるよう推進していく。
(2) 研究と実践について	○教員の資質、能力向上に向けて、より一層、園内外の研修への実施、参加およびサポート体制を充実できるように環境整備を図る。
(3) 園に対する保護者の満足度の把握	○保護者、未就園児に興味や関心をもってもらえるようなオープンスクール、園庭開放のあり方、教育相談の充実を図っていききたい。園活動を更に充実させ、園生活の様子を保護者に伝えられるように、写真や動画を工夫していききたい。

6 学校関係者評価

- ・教員の子どもへの接し方（子どもの話をよく聞く、明るく優しい、強制しない、個性を大切に、のびのびとした保育等）。
- ・園全体の細やかな配慮。バス運転手・バス補助員が、明るく、優しい。
- ・自然豊かな環境（お山のひろば、園庭など）、豊富な行事（季節毎の行事・昔の遊びなど）、充実した設備（人工芝グラウンド・記念講堂）がある。
- ・園児数が多く、異年齢交流が盛ん。学園内交流（大学生・高校生との縦の繋がり）ができる。
- ・改革が実感できる（れんらくアプリの導入、コロナ対策の緩和等）。
- ・頑張る気持ちを褒め、子ども達が「頑張ろう」と思えるように指導してくれている。
- ・創造性が優れ、家での粘土遊びやブロック遊びでもすごいものが作れるような力を育てられている。
- ・植物栽培や菜園活動を同年齢の友だちと一緒にいき、それぞれの感想を聞くことで、自分だけでは見つけられない観点で考えることができている。
- ・子どもとの会話の糸口にもなりやすく、家庭で幼稚園のことを話す機会が増えた。
- ・ホームページや「めばえ」などでの情報発信が増え、昨年度よりも具体的な活動がわかりやすくなった。
- ・自分達で栽培した野菜を活かした給食、先生の励ましとお友だちパワーで、苦手なものも少しずつ食べられるようになった。
- ・たくさん行事があって嬉しい。子どもも刺激をいっぱいもらっていて楽しそう！コロナ禍でも、中止せず、どうやったら開催できるのかを検討し、開催していただけて本当にありがたかった。

【保護者会役員とクラス委員他、保護者アンケート調査の自由記述から】